

教 務 部

部長： 多田 文 副部長： 大西研作

(1) 今年度の目標

①教育課程の効果的な運用と編成

生徒の適性や進路目標をふまえ、あわせて豊かな情操を養うことに留意して現行の教育課程を効果的に運用する。また、新学習指導要領に合わせて、本校生の進路希望に対応した、教育課程の編成をめざす。

②学習意欲と進路意識の高揚

授業でのガイダンス、「テーマプロジェクト(総合的な学習の時間)」での外部講師による講演会や大学訪問が、生徒の学習意欲と進路意識の高揚につながるように計画する。

③情報管理の適正化

個人情報等の適正な管理をする。また、情報機器等の使用に関する利便性を高めて業務の効率化が図られるような仕組み作りに取り組む。

④仮設校舎での対応

仮設校舎での学校行事などの実施に向けて、例年よりも早めに計画を立て始め、手直しの必要な個所を各分掌と連携を図りながら対策を講じる。

⑤分掌の整理

業務内容と分掌の整理を行う。

(2) 主な取り組みの計画

①すべての教科について年度途中で教育課程の実施状況を確認することにより適切な運用を図る。教育課程編成のガイドライン及び手引きにより各教科間で協議調整を行い、効果的な新教育課程を編成していく。

②1年生に対し、シラバスに示されている学習計画を年間計画としてまとめて配布することにより、各科目の学習進度を確認しやすくさせる。1年生のコース選択説明が行われる時期に、2年用のシラバスの一部を配布し、コース選択の参考とする。外部講師による講演会及び大学訪問の内容及び時期が適切であったかどうかを、関係学年団と連携しながら評価し、次年度の内容及び時期を定める。

③情報管理のシステムを確立する。マニュアル等をわかりやすく工夫して、職員の情報機器活用の環境をよりよく整える。

④教務主任・教育企画・学校行事を中心に夏休みまでに対策の必要なものをリストアップし、各分掌に連絡、調整を始める。

⑤学校評価・教育研究の分掌で混乱が生じている点を夏休みを目途に是正する。

(3) 成 果

- ①新教育課程全面実施を開始し、教育課程委員会で教科ごとの問題点を洗い出した。その結果、3年の履修単位を1・2年とそろえ、32単位とし、文系は地歴で、理系は理科で1単位増単とすることとした。これにより、月曜日の6限目が全学年授業となり、時間割変更もしやすくなった。
- ②年度初めにシラバスを配付することにより年間を通した学習計画を立てることができた。外部講師による講演会や大学訪問により、進路目標をより明確にすることができた。
- ③新校舎への移設のためLANの環境を検討し、円滑な移設ができるよう準備した。また、進路や学年団で使うソフトの準備やマニュアルを案内した。
- ④新校舎利用に向けて、工夫をしながら取り組めた。校舎建築の作業進捗状況に応じて、対応すべき事柄が異なり、臨機応変の対応が必要であった。
- ⑤取り組めていない。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ①新教育課程と大学入試の形態について進路と緊密に連携を取っていく。特に文系の理科の在り方について研究する。
- ②シラバスについては、学習計画をより立てやすいよう、編集に努める。大学訪問については複数大学に訪問したことにより事前調整に手間取った。次年度は地元大学に絞りこんで計画する。
- ③新校舎へ移設した後の安定した情報機器の利用ができるようにする。
- ④要録の電子化のための下準備や県担当の方との打ち合わせを緊密に行う。
- ⑤新校舎での学校行事・時間割のあり方について、検証しながらすすめる。そのために、教務4役会を定期的に持つ。
- ⑥新教育課程を踏まえた現職教育、現在学校評価が担当しているオープンスクールの担当、内容について検討する必要がある。